

経営比較分析表

宮城県 女川町

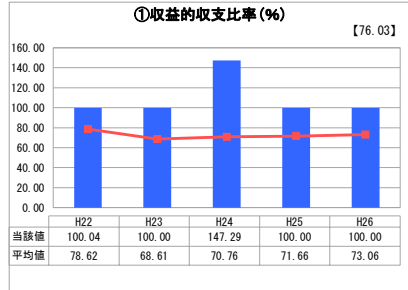
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 |
|------------|--------------|---------|---------------------------------|
| 法非適用 | 水道事業 | 簡易水道事業 | D4 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円) |
| - | 該当数値なし | 19.77 | 2,430 |

| 人口 (人) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|------------|---------------------------|-----------------------------|
| 7,124 | 65.35 | 109.01 |
| 現在給水人口 (人) | 給水区域面積 (km ²) | 給水人口密度 (人/km ²) |
| 1,386 | 1.00 | 1,386.00 |

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



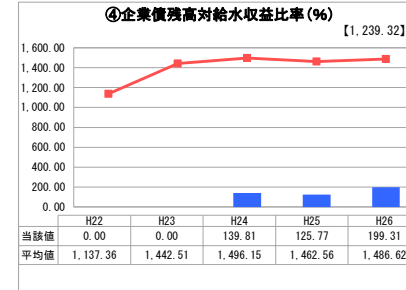
「単年度の収支」



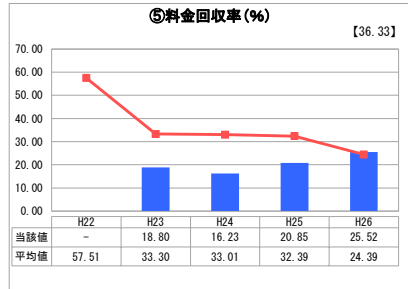
「累積欠損」



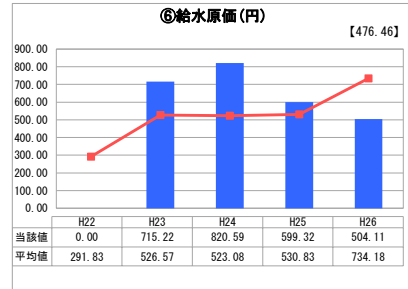
「支払能力」



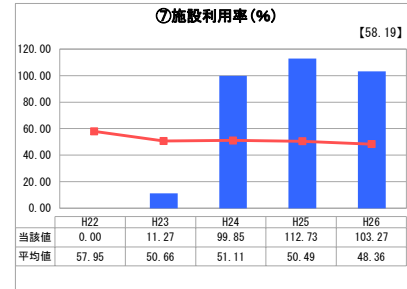
「債務残高」



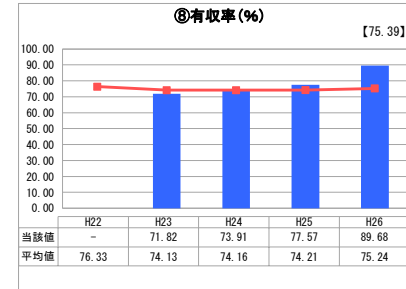
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

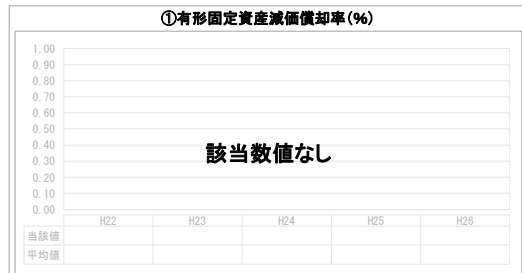


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

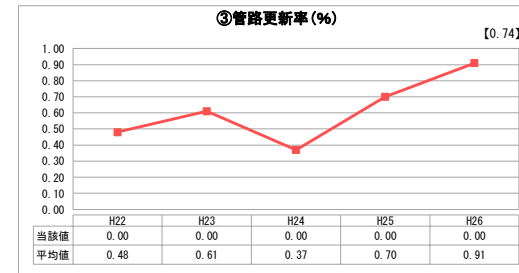
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

⑤料金回収率について
給水人口が少ない簡易水道区域なので、料金収入のみで料金回収率を100%にするのは難しく、一般会計からの繰入金を充てている。

2. 老朽化の状況について

災害復旧事業により、大部分が新設管（耐震管）となる予定である。

全体総括

平成29年度から水道事業会計（法適用）への統合を検討している。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。